

〔研究報告〕

「妊娠期の父性」の概念分析

田林麻里絵¹⁾ 川原 妙¹⁾ 菊池 良太¹⁾ 山崎あけみ¹⁾

要 旨

目的：妊娠期から父性を育み、胎児へ高い愛着をもつことは出生後の子どもへの愛着に関連するため重要である。「父親意識」「父親役割」等について定義している文献は散見するが、妊娠期に限定して用語を定義している先行研究は見当たらず、また「妊娠期の父性」について明確に概念化している研究は見当たらない。本研究は、「妊娠期の父性」の概念を概念分析によって明らかにすることを目的とする。

方法：Rodgersの概念分析のアプローチ法を用いた。検索には、医中誌Web, CiNii Research, PubMed, CINHAL, PsycINFOの5つのデータベースを使用した。検索の結果、日本語文献14件、英語文献16件の計30件を分析対象とした。

結果：属性は【父親としての責任】【胎児への愛着】等の6カテゴリ、先行要件は【胎児への接近感情と回避感情】【理想の父親像】等の7カテゴリ、帰結は【自己概念の変化】【夫婦サブシステムの変化】等の4カテゴリが抽出された。

考察：分析の結果、本概念を「父親としての責任感を持ち、父親役割を獲得し、良い父親になる意識および養育行動をする自分をイメージすることにより、妊娠への関与行動をとり、胎児への愛着を育むこと」と定義した。

結論：今後は妊娠期において妊婦だけでなく、父親も含めて支援対象であると認識し、家族員全員に対して適切な介入をする必要がある。

キーワード：妊娠期、父性、概念分析

1. 緒 言

かつての日本は「仕事は男性、家事育児は女性」といった性役割意識があったが、2010年には「育てる男が、家族を変える。社会を動かす。」というキャッチコピーを掲げ、厚生労働省のイクメンプロジェクトが発足した（厚生労働省、2010）。また、男性の育児休業取得促進のために令和3年6月に育児・介護休業法が改正された（厚生労働省、2021）。このように家族で積極的に育児をすることができるような取り組みが社会全体で進展している。

父親の在り方が見直されている現代社会である

が、父親を対象とした研究は、母親を対象にした研究と比較して国内外ともに未だ少ない。事実、「母性」に関しては、看護学を初め、心理学、社会学等の様々な領域において定義されているが、「父性」に関しては、広辞苑における「父親としての本能や性質」といった定義以外は明確に定義されておらず、「母性」との対立的二元論として語られる、もしくは人類社会学においては社会における制度としての家父長的存在とみなされていることが多い（綾部、1995；大橋、浅野、2009）。

また育児期の研究と比較して、妊娠期の研究は未だ少ない。産後早期から父親役割適応を促すためには、妊娠期から具体的な父親役割行動を考え、準備

1) 大阪大学大学院医学系研究科

しておく必要があり（森田，森，坂上，2021），また生物学的に「父親になる」ことは誰にでもできるが，「父親をする」ためには，親になるという準備段階を経て父親としての発達プロセスを体験することが父親としての認識の形成には不可欠であることが明らかになっている（デッカー，丸山，2015）．これらのことより，父親になる準備段階である妊娠中に着目することは，産後への父性の発達プロセスを理解する上でも重要である．父親に関する先行研究においては，「父親意識」，「父性意識」，「父親役割」，「父親の親としての発達」の用語の定義がみられた．「父親意識」とは「男性の大人が子どもの誕生・成長発達に責任を持とうと決意・認識しているさま」（宮崎，1986），「父性意識」とは「子どもが好きという単なる気持ちではなく，自分の子どもへの特別の感情，保護・養育することの責任と義務，あるいは厭わない愛情（子どもとの強い絆）」（新道，和田，1990），「父親役割」とは「子どもの養育における父親としての一定の責務」（木越，泊；2006），「親としての発達」とは「妊娠・出産や育児を通して，父親が親としての意識や役割を獲得していく過程および変化」（明野，2013）と定義されていた．しかし，これらは妊娠中に限定して用語を定義しておらず，また父性を表す意識面，行動面を共に含む定義ではなかった．

本研究において，妊娠期のパートナーをもつ父親の父性，すなわち「妊娠期の父性」の概念を明らかにすることにより，妊娠期の父性の発達を促す家族支援の在り方を検討し，それにより産後に父親の育児参加を促す一助になると考える．本研究の目的は，「妊娠期の父性」の概念を概念分析によって明らかにすることとする．

II. 研究方法

1. 概念分析の方法

概念分析の方法には，Rodgersの概念分析を用いた（Rodgers, Knafli, 2000）．これは，人が相互作用

する中で時間や状況に伴い概念は変化するものという考えを基盤とし，人々がどのような概念として認識し使用しているのかを分析することで，明確化することが可能な分析方法である．Rodgersの概念分析を採択する際には，概念はダイナミックに変化するものであり，境界が曖昧で，文脈依存のものであること，かつ概念の辞書的定義ではなく，文脈に基づいた真実，本質，普遍性を志向した個性記述的な一般化から概念を明らかにすることが求められる（濱田，2017）．「妊娠期の父性」の概念は，時間，すなわち社会の変化と共に変化し，文脈に基づいて本質を志向する概念であるため，本研究においてはRodgersの概念分析法を採択した．

2. データ収集方法

文献検索の検索年度は制限せず，2022年5月までの日本語，英語の看護学，助産学，医学，心理学分野の文献を対象とした．検索に使用したデータベースは，日本語文献では，医学中央雑誌Web版Ver.5, CiNii Research, 英語文献では，PubMed, CINAHL, PsycINFOであった．医中誌Webでは [原著論文], [会議録を除く] を選択し，検索キーワードは「妊娠期 and (父 or 父性行動 or 親らしさ or 父性)」とした．CiNii Researchでは [論文検索] を選択し，検索キーワードは「妊娠期 and (父 or 父親 or 父性)」とした．PubMedでは [Humans], [Language: English], [Sex: Male], [Adult: +19years] を選択し，CINAHL, PsycINFOでは [Humans], [Language: English], [Sex: Male], [Pregnancy], [Subject Major: fathers], [Academic Journals] を選択し，検索キーワードは「(Pregnancy Trimesters or Pregnancy) and (Fathers or Paternal Behavior or Parenting)」とした．

検索の結果，医中誌Webは127件，CiNii Researchは192件，PubMedは221件，CINAHLは252件，PsycINFOは65件であった．全文献の表題，抄録を確認し適性を確認し，その中から適性がない文献を除外した結果，医中誌Web 30件，CiNii Research 15件，PubMed 24件，CINAHL 19件，PsycINFO 14件であった．分析対象となる文献は，Rodgersの

30文献または全文の20%をランダムサンプリングする方法を参考に、本研究では最終的な抽出文献数が増える30文献のサンプリング方法を採用した(Rodgers, Knaf, 2000)。適性を確認した文献を個々にランダムサンプリングし、そこから偶数番号の文献を抽出し、最終的に、日本語文献14件(1995~2020年)、英語文献16件(1982~2018年)の計30件を分析対象とした。30文献の文献領域の内訳は、看護学15件、助産学3件、医学6件、生殖心理学1件、幼児心理学4件、家族心理学1件であった。

3. 分析方法

分析において、「妊娠期の父性」は、妊娠初期、中期、後期といった時期別に父性の性質が異なるものではなく、妊娠初期であっても「妊娠期の父性」が発達している父親もいることを前提に、人が相互作用する中で時間や状況に伴い概念は変化するという考えの下、分析を行った。「妊娠期の父性」という概念の定義を構成する属性、概念が発生・出現するのに先立って生じる出来事や事象を表す先行要件、概念が発生・出現した結果として生じる出来事や事象を表す帰結に該当すると考えられる記述を抽出し、コーディング・シートに記述した。抽出したデータ毎にコード化し、類似性や相違性に基づいてサブカテゴリ化・カテゴリ化し、その結果を踏まえ

「妊娠期の父性」の概念の定義を行った。分析から抽出された属性、先行要件、帰結から概念モデルを作成した。

分析の信頼性および妥当性の確保のために、大学院生間での意見交換および看護研究に精通した概念分析の研究指導経験のある研究者のスーパーバイズを受けた。

III. 結果

本概念分析で抽出された属性、先行要件、帰結のカテゴリを【 】, サブカテゴリを〈 〉で示す。

1. 「妊娠期の父性」の属性

属性は、6つのカテゴリ、12のサブカテゴリが抽出された(表1)。

1) 【父親としての責任】

父親としての現実的な意識が高まり(山本, 内山, 川越, 1995)、父親になる実感が湧いていた(村上, 内山, 川越, 1995)ことより〈父親になる自覚〉(デッカー, 2020; 神崎, 2005)が芽生えるようになっていた。〈父親になる責任感〉(Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; 松田, 2018; Osofsky, 1982)をもち、経済基盤の認識が変化する(Jordan, 1990)ことより〈大黒柱としての認識〉をしていた。

表1. 「妊娠期の父性」の属性

カテゴリ	サブカテゴリ	文献
父親としての責任	父親になる自覚 父親になる責任感 大黒柱としての認識	デッカー, 2020; 神崎, 2005; 村上, 内山, 川越, 1995; 山本, 内山, 川越, 1995; Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; 松田, 2018; Osofsky, 1982 Jordan, 1990
父親役割獲得	父親役割獲得	Johnsen, Stenback, Halldén, et al., 2017; Jordan, 1990; 森田, 森, 石井, 2010
良い父親になる意識	リスク要因の回避 良い父親になる意欲	村上, 内山, 川越, 1995 村上, 内山, 川越, 1995; 山本, 内山, 川越, 1995
養育行動のイメージ	産後の育児を想像 育児意欲	森田, 森, 石井, 2010; 村上, 内山, 川越, 1995 Cox, Holden, Sagovsky, 2009; 池田, 入山, 2014; 村上, 内山, 川越, 1995; 山本, 内山, 川越, 1995
妊娠への関与行動	出産・育児準備行動 パートナーへのサポート行動 夫の役割行動	Gage, Kirk, 2002; 池田, 入山, 2014; Redshaw, Henderson, 2013; 佐々木, 2005 森田, 森, 石井, 2010; 村上, 内山, 川越, 1995; 尾栢, 2018; Redshaw, Henderson, 2013; Thorstensson, Mårtensson, Bäckström, et al., 2017; 山本, 内山, 川越, 1995 Gage, Kirk, 2002; 豊増, 川田, 2020; 山本, 内山, 川越, 1995
胎児への愛着	胎児への愛着	Bouchard, 2012; Camarneiro, Miranda, 2017; デッカー, 2020; Habib, Lancaster, 2010; 小泉, 中山, 福丸, 他, 2017

2) 【父親役割獲得】

父親としてどのような役割を担うか熟慮し (Jordan, 1990; 森田, 森, 石井, 2010), 周囲から父親として認められるための努力を行っていた (Jordan, 1990) ことより〈父親役割獲得〉(Johnsen, Stenback, Halldén, et al., 2017) が抽出された。

3) 【良い父親になる意識】

喫煙などの〈リスク要因の回避〉をしようと努力をしていた (村上, 他, 1995)。また, 良い父親像に近づくための努力 (村上, 他, 1995; 山本, 他, 1995) や子どもを育てるために出来る限りの努力をする (村上, 他, 1995) といった〈良い父親になる意欲〉をもっていた。

4) 【養育行動のイメージ】

〈産後の育児を想像〉(森田, 他, 2010; 村上, 他, 1995) し, 共同養育を意識する (Cox, Holden, Sagovsky, 2009) ことより〈育児意欲〉(池田, 入山, 2014; 村上, 他, 1995; 山本, 他, 1995) が湧いていた。

5) 【妊娠への関与行動】

父親は育児用品を購入したり (池田, 入山, 2014; 佐々木, 2005), 良い父親になるための情報を得ること (Gage, Kirk, 2002), 出産前準備教室へ参加する (Redshaw, Henderson, 2013) といった〈出産・育児準備行動〉をとっていた。妊婦健診の付き添い (Redshaw, Henderson, 2013) やパートナーに対しての思いやりをもち (Thorstensson, Mårtensson, Bäckström, et al., 2017; 山本, 他, 1995), 協力しようとする気持ちが芽生える (森田, 他, 2010; 村上, 他, 1995) ことより〈パートナーへのサポート行動〉(尾栢, 2018) をとっていた。夫としての役割意識を有し (山本, 他, 1995), 夫としての新しい役割に対する期待に適応する (Gage, Kirk, 2002) 等, 〈夫の役割行動〉(豊増, 川田, 2020) をとっていた。

6) 【胎児への愛着】

子どもに対する想いが大きくなり (デッカー, 2020), 自分の子どもに対する愛着が育まれることより〈胎児への愛着〉(Bouchard, 2012; Camarneiro,

Miranda, 2017; Habib, Lancaster, 2010; 小泉, 中山, 福丸, 他, 2017) が抽出された。

2. 「妊娠期の父性」の先行要件

先行要件は, 7つのカテゴリ, 20のサブカテゴリが抽出された (表2)。

1) 【父親の個人的要因】

〈年齢〉は, 若年より高年の父親の方が胎児への愛着が高く (Camarneiro, Miranda, 2017), 学歴の低い父親の方が胎児に対しネガティブ感情を抱く (Schytt, Hildingsson, 2011) ことより〈父親の学歴〉が抽出された。〈自身の被養育体験〉が胎児への愛着に関連があり (Bouchard, 2012), これまでの人生の中で〈子どもの世話の経験〉がある男性の方が胎児への接近感情が高まること示された (村上, 他, 1995)。

2) 【家庭状況】

婚姻している家庭の方が未婚の家庭よりも父親の胎児への愛着が高まり (Bouchard, 2012; Cox, et al., 2009), 同居している方が父親の胎児への愛着が高まる (Camarneiro, Miranda, 2017) ことより〈婚姻状況〉が抽出された。父親の職業的地位が高いほど胎児への愛着が高く (Camarneiro, Miranda, 2017), 〈経済的状況〉が不安定であると父親の心身の健康状態 (Schytt, Hildingsson, 2011), 父親としての新しい役割に対する不安にも影響を及ぼす (Thomas, Bonér, Hildingsson, 2011) ことが示された。〈子どもの人数〉は, 初産の父親の方が経産の父親よりも胎児への愛着は高まる (Camarneiro, Miranda, 2017; 尾栢, 2018) が, 父親としての新しい役割に対する不安が生じる (Thomas, et al., 2011) ことが示された。〈妊娠の計画性〉をしていた父親の方が無計画の父親よりも胎児への愛着は高まり (Camarneiro, Miranda, 2017), 産後の養育行動に影響を及ぼす (Cox, et al., 2009) ことが示された。

3) 【喜びとストレス】

親になる喜び (デッカー, 2020; Redshaw, Henderson, 2013) や嬉しさ (松田, 2018; 豊増, 川田, 2020), ポジティブな感情を覚える (鈴木, 島田,

表2. 「妊娠期の父性」の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	文献
父親の個人的要因	年齢	Camarneiro, Miranda, 2017
	父親の学歴	Schytt, Hildingsson, 2011
	自身の被養育体験	Bouchard, 2012
	子どもの世話の経験	村上, 内山, 川越, 1995
家庭状況	婚姻状況	Bouchard, 2012; Camarneiro, Miranda, 2017; Cox, Holden, Sagovsky, 2009
	経済的状況	Camarneiro, Miranda, 2017; Schytt, Hildingsson, 2011; Thomas, Bonér, Hildingsson, 2011
	子どもの人数	Camarneiro, Miranda, 2017; 尾栢, 2018; Thomas, Bonér, Hildingsson, 2011
	妊娠の計画性	Camarneiro, Miranda, 2017; Cox, Holden, Sagovsky, 2009
喜びとストレス	喜び	デッカー, 2020; 松田, 2018; Redshaw, Henderson, 2013; 鈴木, 島田, 2015; 豊増, 川田, 2020
	満足感	Osofsky, 1982; Redshaw, Henderson, 2013
	不安・抑うつ感	デッカー, 2020; Ferketich, Mercer, 1989; Osofsky, 1982; 豊増, 川田, 2020
	ストレス	Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; 神崎, 2005; 小泉, 中山, 福丸, 他, 2017; Morse, Buist, Durkin, 2000; Schytt, Hildingsson, 2011; 鈴木, 島田, 2015
受容と非現実感	妊娠の受容	Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; 神崎, 2005; Kowlessar, Fox, Wittkowski, 2015
	胎児の存在を実感	Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; 松田, 2018; 佐々木, 2005; 山本, 内山, 川越, 1995
	非現実感	Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; Jordan, 1990
胎児への接近感情と回避感情	胎児への接近感情	神崎, 2005; 村上, 内山, 川越, 1995; 尾栢, 2018; 佐々木, 2005; 鈴木, 島田, 2015
	胎児への回避感情	古田, 生塩, 池尻, 他, 1999; 鈴木, 島田, 2015
理想の父親像	理想の父親像	神崎, 2005; 森田, 森, 石井, 2010; 豊増, 川田, 2020
社会的支援・資本の享受	社会資源の享受 他者との経験共有	Huang, Hung, Huang, et al., 2018; Morse, Buist, Durkin, 2000; Xue, He, Chua, et al., 2018 Johnsen, Stenback, Halldén, et al., 2017; Thorstensson, Mårtensson, Bäckström, et al., 2017

2015) ことより〈喜び〉が抽出された。また、妊娠したことを誇りに感じ (Osofsky, 1982), 〈満足感〉 (Redshaw, Henderson, 2013) を得ていた。

一方で、父親は親になることに対する不安 (デッカー, 2020; Ferketich, Mercer, 1989; Osofsky, 1982; 豊増, 川田, 2020) や抑うつ感 (Ferketich, Mercer, 1989) を感じることでより〈不安・抑うつ感〉が抽出された。リラックスできない感覚やネガティブな感情を覚えたり (Morse, Buist, Durkin, 2000; 鈴木, 島田, 2015), 不適格感 (Finnbogadóttir, et al., 2003) や日常生活への制約感を感じる (小泉, 他, 2017) といった〈ストレス〉 (神崎, 2005; Schytt, Hildingsson, 2011) を感じていた。

4) 【受容と非現実感】

父親はパートナーの〈妊娠の受容〉 (Kowlessar, Fox, Wittkowski, 2015), また自身が親になることを受容し (神崎, 2005), 妊娠を現実として受け止めていた (Finnbogadóttir, et al., 2003)。パートナーの身体的変化 (Finnbogadóttir, et al., 2003) や胎動を肯定的に捉える (山本, 他, 1995) ことより〈胎

児の存在を実感〉 (松田, 2018; 佐々木, 2005) していた。胎児の存在を実感することで、胎児を一人の人として、また意識のある存在として認識していた (山本, 他, 1995)。

一方で、父親は妊娠という現実と葛藤している (Jordan, 1990) ことより〈非現実感〉 (Finnbogadóttir, et al., 2003) を覚えていた。

5) 【胎児への接近感情と回避感情】

胎児に対する興味や関心が高まり (尾栢, 2018; 佐々木, 2005), 父親がパートナーのお腹に触れたり, 話しかけたいという願望を抱き (村上, 他, 1995; 鈴木, 島田, 2015), 胎児とコミュニケーションをとる (神崎, 2005) といった〈胎児への接近感情〉を抱いていた。

一方で、父親が胎児に対して否定的 (古田, 生塩, 池尻, 他, 1999), 回避的な感情を覚える (鈴木, 島田, 2015) といった〈胎児への回避感情〉を抱いていた。

6) 【理想の父親像】

子どもにとって良い父親や自分自身を成長させる

〈理想の父親像〉をイメージしたり（神崎，2005；豊増，川田，2020），自身やパートナーの父親，友達を想起することで自分なりの理想の父親像について考えていた（森田，他，2010；豊増，川田，2020）。

7) 【社会的支援・資本の享受】

〈社会資源の享受〉は，産後の育児に向けて妊娠中から情動的・情緒的サポート等といった社会資源を受けけることにより父子の関与レベルが高くなること（Xue, He, Chua, et al., 2018），夫婦関係の質の向上につながる（Huang, Hung, Huang, et al., 2018）ことより抽出された。社会資源等のサポート体制が欠如することで精神的苦痛を及ぼしていた（Morse, et al., 2000）。〈他者との経験共有〉することで父親としての責任感をもつこと（Johnsen, et al., 2017）や夫婦間のコミュニケーションが向上していた（Thorstensson, et al., 2017）。

3. 「妊娠期の父性」の帰結

帰結は，4つのカテゴリ，7のサブカテゴリが抽出された（表3）。

1) 【人格的成長】

自分自身の成長（Finnbogadóttir, et al., 2003；神崎，2005）や親としての発達を感じている（佐々木，2006）ことより〈自己の成長〉を感じていた。また，考え方が柔軟になったり（小泉，他，2017；佐々木，2005，2006），自分の経験が豊かになり（小泉，他，2017），視野が広がったと感じている父親もいた（古田，他，1999；小泉，他，2017；佐々木，2005）。物事を妥協しなくなる等，〈自己の強さ〉（古田，他，

1999；佐々木，2005）を感じていた。

2) 【自己概念の変化】

妊娠前までの男性が自己認識している男性像（夫，稼ぎ手，息子）から妊娠後はそこに“父親”のアイデンティティが加わり（Habib, Lancaster, 2010），父親としての自己概念の再定義を行う（Kowlessar, et al., 2015）ことより〈自己概念の変化〉が起こっていた。

3) 【夫婦サブシステムの変化】

新しい家族像を想像し（松田，2018），妊娠中に夫婦でコミュニケーションをとる（池田，入山，2014；佐々木，2005；Thorstensson et al., 2017）ことにより，夫婦関係の親密性（デッカー，2020；小泉，他，2017；村上，他，1995）や満足度（Cox et al., 2009；Xue et al., 2018；山本，他，1995）が向上し，夫婦間での一体感を感じていた（Thorstensson, et al., 2017）ことより〈夫婦サブシステムの向上〉が起こっていた。

一方で，父性が形成する中で，夫婦間での葛藤があり（小泉，他，2017），夫婦機能が低下する（Morse, et al., 2000）側面もみられることより〈夫婦サブシステムの低下〉が起こっていた。

4) 【家庭と社会の調整】

父親が産後の育児に向けて〈育児休暇取得〉を計画したり（Redshaw, Henderson, 2013），周囲から育児に関する情報を受け，仕事と家庭内役割のバランスについて考える（森田，他，2010）ことより〈社会と家庭のバランス調整〉を行っていた。

表3. 「妊娠期の父性」の帰結

カテゴリ	サブカテゴリ	文献
人格的成長	自己の成長	Finnbogadóttir, Svalenius, Persson, 2003; 神崎, 2005; 小泉, 中山, 福丸, 他, 2017; 古田, 生塩, 池尻, 他, 1999; 佐々木, 2005, 2006
	自己の強さ	古田, 生塩, 池尻, 他, 1999; 佐々木, 2005
自己概念の変化	自己概念の変化	Habib, Lancaster, 2010; Kowlessar, Fox, Wittkowski, 2015
夫婦サブシステムの変化	夫婦サブシステムの向上	Cox, Holden, Sagovsky, 2009; デッカー, 2020; 池田, 入山, 2014; 小泉, 中山, 福丸, 2017; 松田, 2018; 村上, 内山, 川越, 1995; 佐々木, 2005; Thorstensson, Mårtensson, Bäckström, 2017; Xue, He, Chua, et al., 2018; 山本, 内山, 川越, 1995
	夫婦サブシステムの低下	小泉, 中山, 福丸, 他, 2017; Morse, Buist, Durkin, 2000
家庭と社会の調整	育児休暇取得 社会と家庭のバランス調整	Redshaw, Henderson, 2013 森田, 森, 石井, 2010

4. モデルケース

「妊娠期の父性」の理解を深めるために、本概念を表徴するひとつの現象をモデルケースとして示す。

Aさん30代男性、会社員。結婚して1年経過した頃に妻が第1子を妊娠した。夫婦ともに子どもを望んでいたこともあり、妊娠が発覚した時にはAさんも非常に喜んだ一方で、親になることに対する不安な気持ちも抱いていた。Aさんは、仕事の調整ができた日は妊婦健診に付き添い、エコー画像を見て胎児の姿を可視化することで、胎児の存在を実感していた。徐々に大きくなる妻のお腹を見ることや妻のお腹を触り胎動を感じることで父親になる自覚や責任感が湧き、父親としての役割意識が芽生えていた。Aさんは、妻が妊娠するまでは喫煙していたが、妊娠を機に禁煙をして子どもに害になることは回避するといった行動変容がみられた。夫婦で出産前準備教室に参加し出産や産後の経過について学ぶことで、育児用品を買いに行ったり、子どもが生まれたら沐浴の担当になる等と意欲的に育児に携わるイメージをもつようになった。妻のお腹が大きくなってきた時期にAさんは、仕事が繁忙期を迎え帰宅時間が遅くなる日が続いたが、仕事の調整が可能な日はできる限り早く帰宅し、今まで料理をすることが苦手な妻に任せきりにしていた食事の準備をする等、妻の身体を労わるように努めた。Aさん夫婦は、胎児の成長をスマートフォンのアプリを通して共有し、Aさんもアプリから発信される情報を積極的に収集し、「この時期には肺が出来上がる時期だね」等と妻と話をすることで夫婦の会話の内容は自然と胎児に関するものとなっていた。このように妻をサポートしたり、胎児について夫婦で頻繁に話すことにより胎児への愛着が育まれていった。妻と産後のことについて話す中で、Aさんは育児休暇取得を望むようになり、職場に申し出て産後2ヵ月間の育児休暇を取得できることとなった。

Aさん夫婦は、妊娠を機により互いを労わり合い、胎児のことを含め話し合いを重ね、夫婦で行動を共にすることにより夫婦サブシステムが向上した。ま

たAさん自身は妊娠期を通して、出産後に始まる育児に備えた準備行動ができる父親へと成長した。

5. 「妊娠期の父性」の概念モデルの構築

Rodgers, Knafl (2000) が提唱する概念分析の方法を用いて「妊娠期の父性」の概念分析を行い、属性6カテゴリ、先行要件7カテゴリ、帰結4カテゴリが抽出された。本研究結果をもとに、「妊娠期の父性」の概念モデルを作成した(図1)。

IV. 考 察

1. 本概念の定義

本研究結果を基に「妊娠期の父性」の概念を「父親としての責任感をもち、父親役割を獲得し、良い父親になる意識および養育行動をする自分をイメージすることにより、妊娠への関与行動をとり、胎児への愛着を育むこと」と定義した。

2. 本概念の特性

妊娠期において父親が胎児へ高い愛着をもつことは、父親自身の心身の幸福度 (Condon, Corkindale, Boyce, et al., 2013), パートナーや乳児の健康 (Plantin, Olukoya, Ny, 2011), さらに出生後の子どもへの愛着 (Lindstedt, Korja, Vilja, et al., 2021) に関連する。また、妊娠を肯定的に捉えられる夫は父性意識が発達しやすい (木越, 泊, 2006; 小野寺, 青木, 小山, 1998) ことより、妊娠期から父性を発達させることは、家族員全員にとって重要なことであると考えられる。また現代では、里帰り出産や同居をしていないカップルも多く存在する。そのような状況の父親であっても本概念で明らかになったように、胎児の存在を受容し、実父や友人といった父親モデルを参考に理想の父親像を想像することで、良い父親になる意識が芽生え、養育行動をイメージし、自己概念が変化することにより父性を発達させていくと考えられる。本研究の結果を踏まえて、「妊娠期の父性」の概念の特性として三つの視点から考察をする。

「妊娠期の父性」の概念の特性の一目つとして、

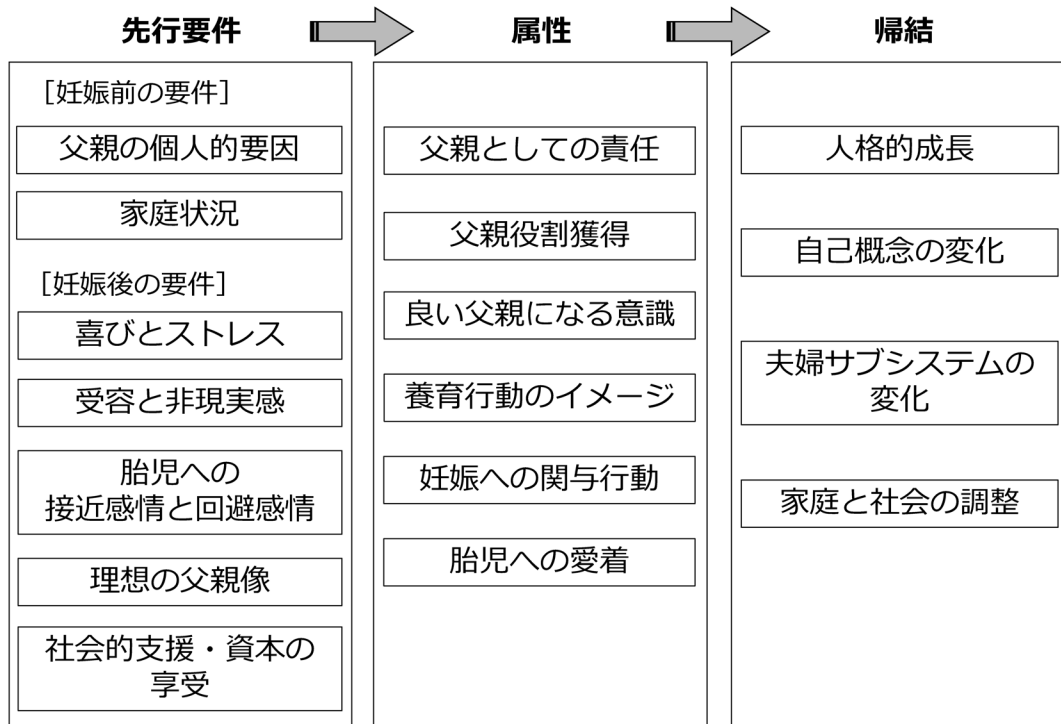


図1. 「妊娠期の父性」の概念図

妊娠期の父性は、妊娠期間全体を通して変化、発達する概念であると考えられる。妊娠や胎児に対して【受容と非現実感】、【喜びとストレス】、【胎児への接近感情と回避感情】といったアンビバレンスな感情を抱くが、【社会的支援・資本の享受】をし、【父親としての責任】感を持ち、【妊娠への関与行動】をとるようになることにより、【胎児への愛着】を育み、【家庭と社会の調整】を行うといったプロセスを踏みながら時間と共に父性が発達していくことが本研究より示された。木越、泊（2006）も「父親としての気持ちの出発」、「父親像の形成」、「父像の行動化」というように父親役割の獲得プロセスが存在することを示唆していることより、本研究と同様の結果が得られた。このように、妊娠期の父性は妊娠期間全体を通してプロセスを踏みながら変化する特性が示唆された。

二つ目の特性として、父親自身の子どもの頃の家族の環境等といった妊娠前の要因が父性の発達に影響を及ぼすと考えられる。【父親の個人的要因】の〈自身の被養育体験〉や〈子どもの世話の経験〉を回想することによって、自分が親になる時の【理想の

父親像】を思い描き、【良い父親になる意識】、【養育行動のイメージ】をすることにより【妊娠への関与行動】や【胎児への愛着】につながると考えられる。渡辺（2000）は、母子関係において世代間伝達とは、幼少期の体験が大人になってからの子育ての能力に影響することと述べており、被養育体験の特徴、性質、価値観などは、親から子どもへ世代間伝達していくことを報告している。父親に関しては、父親自身が親から受けた養育が産後の子どもへの愛着と関連があることが明らかになっている（Condon, et al., 2013）。このことから、父親においても被養育体験の価値観等、これまでの人生における家族に対する考え方が理想の父親像や養育行動のイメージに影響を及ぼすと考えられる。

三つ目の特性として、妊娠期間は父親自身の個人内の変化だけでなく、他者との関係も変化する概念であると考えられる。妊娠期に父性が発達することにより【人格的成長】や【自己概念の変化】といった父親自身の個人内での変化、また【夫婦サブシステムの変化】や【家庭と社会の調整】といった父親と他者の関係性を調整し変化が現れることが本研究

より示された。柏木、若松（1994）は、親になる前後を比べた結果、人格的・社会的な行動や態度の変化が起こることを報告している。また、林、大月、森（2004）は、子どもの誕生に伴う父親役割行動の調整には「育児」「家事」「妻の精神的支援」における調整過程や仕事を調整し早く帰宅するなどの「生活習慣の修正」における調整過程があり、これらが同時に行われていると明らかにしている。以上より、本研究と同様の結果が得られた。このように、妊娠期には父性が発達する中で、父親自身の変化、および父親と他者との関係を調整し変化する特性が示唆された。

4. 家族看護への示唆

現在の日本において少子化や核家族化、女性の社会進出の増加に伴い「夫は仕事、妻は家事育児」という時代から変化し、家庭内における父親の存在は重要視されている。しかし、妊娠期における父親の研究は、育児期における父親の研究と比較して未だ少ないのが現状であり、「妊娠期の父性」の概念を明らかにした研究は本研究が初めてである。本概念分析によって、妊娠期における父親に焦点を当てた研究の発展、および妊娠期と育児期の父性の比較検討や移行プロセスの探求の一助になると考える。

妊娠中において、父親に対し、胎児の成長やパートナーの心身の変化について、また父親が今現在できるパートナーへのサポート行動や産後の養育行動のイメージできるような情報支援をすることにより、妊娠中にある父親の父性の発達を促進することができると思われる。

V. 本研究の限界と今後の課題

今回の研究では、Rodgersの30文献または全文献の20%をランダムサンプリングする方法を参考に文献を抽出したため、30文献のみを対象としている。そのため、研究結果に網羅的に文献を反映できておらず、結果を一般化するには限界があると思われる。また、論文のみに限定して文献を抽出したた

め、今後は今回の研究では抽出していない書籍も含めて精読し、本概念の検討を重ねる必要がある。

VI. 結 論

本研究では「妊娠期の父性」の概念分析を行った。その結果、6つの属性、7つの先行要件、4つの帰結を抽出した。研究結果より、「妊娠期の父性」を「父親としての責任感を持ち、父親役割を獲得し、良い父親になる意識および養育行動をする自分をイメージすることにより、妊娠への関与行動をとり、胎児への愛着を育むこと」と定義した。本研究で妊娠期の父親の父性の概念構造が明らかになったことにより、今後は妊娠期において妊婦だけでなく、父親も含めて支援対象であると認識し、家族員全員に対して適切な介入をする必要があると考える。それにより、妊娠期にある家族は、周産期に起こり得る家族機能の変化にうまく順応することができ、周産期ケアの発展にも寄与できるのではないかと考える。

謝 辞

本研究の一部は、日本家族看護学会第29回学術集会において発表した。なお、本研究に関して、著者らに開示すべき利益相反関連事項はない。

各著者の貢献

MTは、研究の構想、データ収集、データ分析・解釈、論文執筆の全研究のプロセスを担当した。TKとRKとAYは、データ分析と解釈、原稿への示唆、研究プロセス全体への助言を行った。著者らは、発表原稿の最終承認を行った。

{ 受付 '22.06.29 }
{ 採用 '22.12.01 }

文 献

- 明野聖子：妊娠期から乳幼児期における父親の親としての発達に関する文献レビュー、北海道医療大学看護福祉学部学会誌、9(1): 65-71, 2013
綾部恒雄：現代の父親—その文化人類学的考察—、精神療法、1(5): 33-38, 1995
Bouchard, G.: Intergenerational transmission and transition

- to fatherhood: a mediated-moderation model of paternal engagement. *Journal of Family Psychology*, 26: 747-755, 2012
- Camarneiro, A., Miranda, J.: Prenatal attachment and socio-demographic and clinical factor in Portuguese couples, *Journal of Reproductive and Infant Psychology*, 35: 212-222, 2017
- Condon, J., Corkindale, C., Boyce, P., et al.: A longitudinal study of father-to-infant attachment: antecedents and correlates, *Journal of Reproductive and Infant Psychology*, 31(1): 15-30, 2013
- Cox, J., Holden J., Sagovsky, R.: Pregnancy intentions during the transition to parenthood and links to coparenting for first-time fathers of infants, *Parenting: Science & Practice*, 9(1/2): 1-35, 2009
- デッカー清美：初めて父親になる人の準備性，*医学と生物学*, 160: 1-9, 2020
- デッカー清美，丸山昭子：父親認識に関する文献研究，*日本農村医学会雑誌*, 64(4): 718-724, 2015
- Ferketich, S. Mercer, R.: Men's Health Status during pregnancy and early fatherhood, *Researchig Nursing & Health*, 12(3): 137-48, 1989
- Finnbogadóttir, H., Svalenius, E., Persson, E.: Expectant first-time fathers' experiences of pregnancy, *Midwifery*, 19: 96-105, 2003
- 古田祐子，生塩麻衣，池尻真紀，他：妊娠期の妻の働きかけによる夫の親性発達，*母性衛生*, 40: 482-490, 1999
- Gage, J., Kirk, R.: First-time fathers: perceptions of preparedness for fatherhood, *Canadian Journal of Nursing Research*, 34: 15-24, 2002
- Habib, C., Lancaster, S.: Changes in identity and paternal-foetal attachment across a first pregnancy, *Journal of Reproductive and Infant Psychology*, 28: 128-142, 2010
- 濱田真由美：Beth L. Rodgersの概念分析について—哲学的基盤に基づく目的と結果の再考—，*日本赤十字看護学会誌*, 17(1): 45-52, 2017
- 林ひろみ，大月恵理子，森恵美：初めての児の誕生にともなう父親役割行動の調整過程に関する研究，*日本母性看護学会誌*, 4(1): 30-37, 2004
- Huang, Y., Hung, C., Huang, M., et al.: First-time fathers' health status during the perinatal period, *Applied Nursing Research*, 40: 137-142, 2018
- 池田友美，入山茂美：妊娠期に夫婦で行う出産育児準備と夫の育児意図の関連，*母性衛生*, 55: 95-101, 2014
- Johnsen, H., Stenback, P., Halldén, B., et al.: Nordic fathers' willingness to participate during pregnancy, *Journal of Reproductive and Infant Psychology*, 35: 223-235, 2017
- Jordan, P.: Laboring for relevance: expectant and new fatherhood, *Nursing Research*, 39: 11-16, 1990
- 神崎光子：妊娠後期における夫の親役割への適応に関する研究（第1報）親としての態度・行動的变化と親意識，妻との関係性，子どもへの感情および自我状態との関連，*母性衛生*, 45: 540-550, 2005
- 柏木恵子，若松素子：「親となる」ことによる人格発達，生涯発達の視点から親を研究する試み，*発達心理学研究*, 5(1): 72-83, 1994
- 木越郁恵，泊裕子：周産期における夫の父親役割獲得プロセス，*家族看護学研究*, 12(1): 32-38, 2006
- 小泉智恵，中山美由紀，福丸由佳，他：妊娠期における夫婦関係と親となる意識との関連，*日本生殖心理学会誌*, 3: 18-25, 2017
- 厚生労働省：平成22年度 雇用均等・児童家庭局，<https://ikumen-project.mhlw.go.jp/>. 2022年6月6日
- 厚生労働省：令和3年度 育児・介護休業法について，<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000130583.html>. 2022年6月6日
- Kowlessar, O., Fox, J., Wittkowski A.: The pregnant male: A metasynthesis of first-time fathers' experiences of pregnancy, *Journal of Reproductive and Infant Psychology*, 33: 106-127, 2015
- Lindstedt, J., Korja, R., Vilja, S., et al.: Fathers' prenatal attachment representations and the quality of father-child interaction in infancy and toddlerhood, *Journal Family Psychology*, 35(4): 478-488, 2021
- 松田佳子：初めて立ち会い出産をした夫の父親になっていく思いの構造 夫婦に対するパースレビューからの分析，*母性衛生*, 59: 189-198, 2018
- 宮崎 叶：母性・父性に関する研究，*日本総合愛育研究所紀要*, 22: 23-34, 1986
- 森田亜希子，森恵美，石井邦子：親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験，*母性衛生*, 51: 425-432, 2010
- 森田亜希子，森恵美，坂上明子：初めて親となる男性の父親役割適応を促進するパタニティポートフォリオの開発，*日本母性看護学会誌*, 21(2): 53-59, 2021
- Morse, C., Buist A., Durkin S.: First-time parenthood: influences on pre and postnatal adjustment in fathers and mothers, *Journal Psychosomatic Obstetrics and Gynecology*, 21: 109-120, 2000
- 村上由紀子，内山 忍，川越展美：妻の妊娠期における父性性（第1報）父性性を構成する要因，*母性衛生*, 36: 250-258, 1995
- 尾栢みどり：妊娠期の妻への夫のサポート行動と胎児への関心 助産院と病院の比較調査から，*日本助産学会誌*, 32: 125-137, 2018
- 小野寺敦子，青木紀久代，小山真弓：父親になる意識の形成過程，*発達心理学研究*, 9(2): 121-130, 1998
- 大橋幸美，浅野みどり：親性とそれに類似した用語に関する国内文献の検討—親性の概念明確化に向けて—，*家族看護学研究*, 14(3): 57-65, 2009
- Osofsky, H.: Expectant and new fatherhood as a developmental crisis, *Bulletin of the Menninger Clinic*, 46: 209-230, 1982
- Plantin, L., Olukoya A., Ny, P.: Positive health outcomes of fathers' involvement in pregnancy and childbirth paternal support: A scope study literature review, *Fathering*

- A Journal of Theory Research and Practice about Men as Fathers, 9(1): 87-102, 2011
- Redshaw, M., Henderson, J.: Fathers' engagement in pregnancy and childbirth: evidence from a national survey, BMC Pregnancy and Childbirth, 13(70): 2013
- Rodgers, B., Knafl, K.: Concept development in nursing: Foundations, Techniques, and Applications (2nd ed), 77-102, Saunders, Philadelphia, 2000
- 佐々木くみこ：親となることによる人格的発達に関する研究 第1子妊娠期の父母について，母性衛生，46: 62-68, 2005
- 佐々木くみこ：親の人格的発達に影響を及ぼす諸要因 妊娠から乳児期にかけて，母性衛生，46: 580-587, 2006
- Schytt, E., Hildingsson I.: Physical and emotional self-rated health among Swedish women and men during pregnancy and the first year of parenthood, Sexual and Reproductive Health, 2: 57-64, 2011
- 新道幸恵，和田サヨ子：母性の心理社会的側面と看護ケア，123, 医学書院，東京，1990
- 鈴木幸子，島田三恵子：夫の「妊娠の計画性と妊娠に対する心理および夫婦関係」と「対児感情」との関連，母性衛生，56: 415-422, 2015
- Thomas, J., Bonér, A., Hildingsson, I.: Fathering in the first few months, Scandinavian Journal of Caring Sciences, 25: 499-509, 2011
- Thorstensson, S., Mårtensson, L., Bäckström, C., et al.: 'To be able to support her, I must feel calm and safe': pregnant women's partners perceptions of professional support during pregnancy, BMC Pregnancy and Childbirth, 17 (234): 2017
- 豊増理伽，川田紀美子：まもなく父親になる男性における，理想の父親像と夫役割行動実践との関連，母性衛生，60: 534-542, 2020
- 渡辺久子：母子臨床と世代間伝達，17, 金原出版，東京，2000
- Xue, W., He, H., Chua Y., et al.: Factors influencing first-time fathers' involvement in their wives' pregnancy and childbirth: A correlational study, Midwifery, 62: 20-28, 2018
- 山本聖子，内山 忍，川越展美：妻の妊娠期における父性性（第2報）妊娠前・中期と後期における父性性的変化，母性衛生，36: 259-265, 1995

A Conceptual Analysis of Gestational Fatherhood

Marie Tabayashi¹⁾ Tae Kawahara¹⁾ Ryota Kikuchi¹⁾ Akemi Yamazaki¹⁾

1) Graduate School of Medicine, Osaka University

Key words: pregnancy, gestation, fatherhood, concept analysis

Objective: It is important that men begin to nurture fatherhood during the pregnancy period and that they develop a high attachment to the fetus, as this is associated with better bonding with the new baby. Although there are many studies that define "paternal consciousness" and "father's role," there are no studies that define only during pregnancy, nor are there any studies that clearly conceptualize "gestational fatherhood." This purpose of the present study is to develop a clear definition of the notion through conceptual analysis.

Methods: The study utilizes the evolutionary concept analysis approach proposed by Rodgers (2000). The authors searched five databases for relevant literature: Ichushi Web, CiNii Research, PubMed, CINAHL, and PsycINFO, collecting a total of 30 articles, 14 in Japanese and 16 in English, for analysis.

Results: The researchers extracted six attribute categories including: "responsibility as a father" and "bonding with the fetus"; seven prerequisite categories, including "feeling of closeness to or avoidance of the fetus" and "ideal paternal figure"; and four consequences categories, including "changes in self-concept" and "changes in the marital subsystem."

Discussion: As a result of the analysis, the authors propose the following redefinition of the concept of "gestational fatherhood": "Having a sense of responsibility as a father, acquiring the role of father, and imagining himself as a good father and caring for his child, thereby engaging in the behaviors involved in pregnancy and developing an attachment to the fetus."

Conclusion: It is important to recognize that future perinatal support policies should take into account not only the needs of pregnant women but also the needs of fathers, as well as the social environment; moreover, such policies should provide for appropriate interventions tailored to all family members.